

平成29年度事業報告

1. 法人本部

ビジョン ●100年続く事業体

基本理念 ●当事者主体のサービス提供 ●地域社会での自立支援 ●社会（地域）貢献

平成29年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

社会福祉法人の責務を具現化し、地域において必要とされる法人を目指します。

- ・法人本部機能を集積させ、盤石な組織体系の構築を目指します。
- ・地域に貢献できる事業を創造し、地域社会との連携強化に努めていきます。
- ・利用者が必要とする新たな事業に積極的に取り組み、支援の手が届かない方へのサービス供給の仕組みの構築を目指します。
- ・社会福祉法人をはじめとする関係事業体などとの連携を深め、多種多様な社会ニーズに対応できる組織体の構築を目指していきます。

1. 概況

○本部所在地の移転

本部を新宿区西早稲田3-1-3-15FWビル1階に移転し、登記などの変更、定款変更手続きを平成30年1月15日付で終わりました。

○働きたい職場づくり応援事業

新宿区が実施した「働きたい職場づくり応援事業」に参加し、1年間実施した成果として“100年続く事業体”というビジョンを掲げました。

対象者	回数（年）	内容
部課長（12名）	10回	
監督職（32名）	6回	
部課長・監督職合同	1回	1年間の学びの成果共有
全職員	29回 (参加人数：79名)	企業合同セミナー 中間報告会（事例発表法人に選出） 成果発表会 (企業合同セミナー皆勤賞49企業中1位で表彰) (企業合同セミナー参加人数49企業中2位)

○人材確保・育成

人材確保は、新障協のPR映像を作成し、SNSを活用してのPRのほか、法人の未来を担う人財育成のため、人材育成PTを発足させ、新人の職員研修に力を入れました。

○総務管理

組織強化、組織経営のガバナンスの強化や財務規律の強化を図るため、法人内のネットワーク化を図り、人事ソフト、給与ソフトを導入し、一体的に総務を管理できるシステムを構築しました。

○区内活動

社会福祉法人の地域貢献事業に取り組みました。新宿区内社会福祉法人連絡会（区内29の社会福祉法人が組織）を社会福祉協議会が事務局となり発足させ、代表幹事を担いました。ほか、活動実績。

名称	回数（年）	備考
新宿区障害者差別解消法職員研修	2回	
地域生活支援拠点施設連絡会	2回	各3名参加
特定相談支援事業所連絡会	4回	各3名参加（うち1回は4名参加）
新宿区図書館運営委員会	5回	委員
新宿区社会福祉協議会評議員会	1回	評議員
新宿区社会福祉協議会施策推進委員会	4回	委員
新宿区内社会福祉法人連絡会（区社協）	5回	代表幹事
新宿区内社会福祉法人連絡会幹事会（区社協）	5回	
新宿区勤労者・仕事支援センター評議員会	3回	評議員
新宿区勤労者・仕事支援センター経営計画策定委員会	3回	経営計画策定委員
知的障害者成人期権利擁護事例集検討会	11回	委員として3名参加
知的障害者擬似体験Winds	15回	擬似体験・打合せ
ウォールパズルアート（水族館・クリスマスツリー）	2回	西新宿こども園 社協ボランティア報告会
吃音当事者会	1回	設立準備意見交換会 5名参加

○公益活動

東京都社会福祉協議会の社会福祉法人協議会や地域公益活動推進協議会に所属するほか、身体障害者部会では、役員法人で、部会運営。

名称	回数（年）	備考
社会福祉法人経営者協議会（都社協）	2回	
東京都地域公益活動推進協議会（都社協）	3回	
身体障害者部会（都社協）	8回	委員
身体障害者部会調査研修委員会（都社協）	5回	委員
東京都重度身体障害者グループホーム連絡会 （都内18法人所属／平成24年設立）	2回	

上記の様々な取り組みを実施するにあたっては、地域で活動をしている関係機関やキーパーソンとなる方々との連携が不可欠であり、多くの地域の関係者が関りを持てる事業やイベントの検討。これらの実現には、職員一人ひとりの従来の既存事業や既存制度の枠組みにとらわれない想像力などが十分に発揮されることが必要であり、地域主体型事業を実践することにより、区内の事業者や施設、地域住民などとの連携を深め、多様なニーズを公益性の高い事業につなげ、他法人や地域との結びつきを強化し、本部並びに各事業拠点がある近隣地域のみならず、新宿区内外、東京都の活動にも積極的に参加し、より広域的な活動を展開し、「多様性のサービス供給体」を目指し、共生社会の実現に取り組んでいきます。

2. 新宿区立障害者福祉センター

職員体制 常勤職員 28名 非常勤職員 29名 (計: 57名)

1. 機能訓練 (機能訓練事業部担当)

登録者及び利用者総数

※3月末現在

項目	登録者数			新規・終了数		のべ利用者数	1日当たりの利用者数
	男	女	計	新規	終了		
利用者数	46名	28名	74名	6名	10名	2,691名	12.8名 (210日)

項目	医師診察	日常体調確認	救急看護	内服等	経口摂取指導	安静臥床
実績数(件)	98	2,575	1	1,300	0	6
項目	トイレケア	看護訪問	面接 (SS利用相談含)	グループ訓練援助	館外訓練随行	合計
実績数(件)	460	0	580	21	21	5,244

2. 多機能型事業 (あすなろ作業所及びトライ工房) 活動実績

あすなろ作業所活動内訳

新宿トライ工房活動内訳

作業内容	日数	人数	出席率	作業内容	日数	人数	出席率
①創作活動等	728	2,216	3	①自主製品作成等	122	1,028	8.4
②授産活動等	30	68	2.2	②学習等	356	1,362	3.8
③自己啓発等	468	1,290	2.7	③バリアフリー、 車椅子体験等	35	110	3.1
④就労体験等	300	318	1	④健康管理・ イベント等	264	845	3.2
⑤社会参加 活動等	53	304	5.7	⑤就労体験等	100	128	1.2
⑥健康管理等	204	290	1.4	⑥緑化事業	226	417	1.8
⑦緑化事業	232	523	2.2				

3. 視覚障害者通所訓練 (視覚障害者通所訓練事業部担当)

利用者数

患者内訳		施術師のべ 出勤人数	合計		1日当たりの 利用者数
障害者	新患者		実施日数	利用者数	
200名	32名	571名	286日	588名	2.05名

4. 手話講習会

受講者数

コース名	定員	応募者数	受講者数	のべ 参加者数	修了者数	修了率
初級	40	55	46	1,366	34	74%
中級	40	42	38	1,083	29	77%
上級	20	35	19	666	17	89%
通訳	10	9	8	257	7	88%
補講	10	10	9	273	9	100%

5. 計画相談及び基本相談支援事業

利用者数 ○契約者数 70名（うち新規33名）

○障害別 ・知的障害：38名 ・身体障害：24名 ・身体+知的障害：7名 ・知的+精神障害：1名

○所属別 ・通所先又は勤務先あり：59名 ・在宅：11名

※地域生活拠点事業（身体障害・知的障害・精神障害の3拠点の身体障害部門）に指定されました。今年度から相談支援専門員2名の配置となり、土曜日や日曜日の相談対応や、アウトリーチ等ができる体制の充実に図りました。昨年度比では、計画策定74件（3.3倍）、モニタリング134件（2.3倍）となりました。

6. 講座・講習会事業

講座実績

開講講座	定員 (全講座計)	受講者数 (全講座計)	実施回数 (全講座計)	延べ人数 (全講座計)	1回あたりの 参加者数 (全講座計)
48	635	516	456	3,649	412.3

講演会・行事

実施日	テーマ・講師	参加者
10月29日	センター祭	1,000名
12月6日	高橋直樹 マリンバ・ピアノコンサート	76名
2月3日	ボッチャ大会	61名
2月28日	講座体験会	15名

7. 高次脳機能障害者支援事業（障害者在宅支援事業部担当）

利用者登録者7名（参加延べ者数333人）

8. 入浴サービス

事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
入浴サービス	6名（男性5名・女性1名）	181日	203名	1.12名

9. 給食サービス

事業実績

	利用者数	実施日数	延べ利用者数	1日当たり
給食サービス	8名(男性6名、女性2名)	221日	537名	2.43名

10. 短期入所事業(短期入所及び日中ショート)

利用実績

(基準日平成30年3月31日)

契約者数	延べ利用者数(名)			利用日数	緊急利用日数	日中一時支援利用者数
	男	女	合計			
102名 (新規16名、終了4名)	217	230	447	776日	16日	14名 (のべ188日)

11. 障害者相談支援事業

相談実績

●相談者

	当事者	家族	関係機関	その他	合計
一般相談	903	41	48	10	1002
ピアカウンセリング	284	247	9	13	553

●障害の種類

	肢体	視覚	言語聴覚	内部	重心	知的	精神	発達	高次能	その他
一般相談	73	8	8	2	6	29	845	2	10	19
ピアカウンセリング	18	245	6	0	2	64	59	139	20	0

●相談内容(一般相談)

一般相談		ピアカン相談
相談項目	件数	件数
情報提供、福祉サービス利用援助	167	144
障害や病状の理解に関する支援	5	61
健康・医療に関する支援	12	50
不安の解消・情緒安定に関する支援	757	59
保育・教育・療育に関する支援	0	47
家族・人間関係に関する支援	15	72
家計・経済(年金・手当等)に関する支援	19	15
生活(金銭・家事・育児等)に関する支援	1	29
就労に関する支援	6	20
社会参加・余暇活動等に関する支援	13	44
権利擁護に関する支援	1	0
その他	6	12
合計		553

●講演会

実施日	テーマ	参加者
9月16日	就労現場での支援者向け発達障害理解「あなたの職場に気になる方はいませんか」	30名

講師：株式会社LITALICO 就労移行支援事業所LITALICOワークス 恒吉 麻実子氏

実施日	テーマ	参加者
3月9日	障害者の親あるうちの自立とその後	80名

講師：東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科 教授 白石 弘己氏

●情報誌「mo i」の発行 6月、9月、12月、3月の4回（1,600部）発行。

12. 居住サポート事業

利用実績：一般相談を含む

13. 社会資源活用促進事業

利用実績

実施内容	対象／実施場所 他	詳細
ボランティア	学生・社会人等一般	10/13 1名、1/5 1名、 身体障害者向け料理講座4月～3月 1名、知的 障害者向け料理講座4月～3月 2名
	社協紹介	竹とんぼ1名 トライ工房2名 組みひも1名
	夏ボラ	8/15～9/8 4名
介護等体験	牛込第二中学校	11/28～30 2名
	早稲田大学	11/6～11/10 2名、11/13～11 /17 2名
作業療法士実習	帝京平成大学	1名
見学	障害者福祉課	4/21 4名・5/19 14名
	首都医校	4/25 17名（生徒13名・引率4名）
	早稲田小学校	5/31 25名（児童17名・引率8名）
	永福学園	6/8 3名（保護者2名・教師1名）
	日本大学歯学部	7/24 2名
	戸塚地区協議会 地域振興部戸塚特別出張所	7/26 12名 ・戸塚地区協議会10名 ・地域振興部戸塚特別出張所2名
	韓国 尚志（サンジ）大学 社会福祉学部	8/22 39名 （学生35名、教授2名、通訳2名）
	福祉部地域福祉課福祉計画係	9/5 社会福祉学科学生2名
	全国肢体不自由児者父母の会 連合会	9/6 9名 ・韓国脳性麻痺福祉会会長他8名

		・全国肢体不自由児者父母の会連合会 事務局員1名
	西早稲田中学校	9/8 2名
	一般	9/22 1名
	日本リハビリテーション協会	10/10 40名 (香港障害者福祉施設職員、通訳者)
	韓国障害者福祉館協会 江原道(カンウォンド)協会	11/9 20名・通訳1名
	新宿区内社会福祉法人連絡会	11/24 新宿区社会福祉協議会3名 慈愛会1名 二葉保育園1名 日本盲人会連合3名 新宿区障害者福祉協会4名 キリスト教奉仕団1名
	韓国 国立リハビリ院	11/29 8名・通訳1名
	一般	1/5 1名
	韓国 リハビリ専攻大学生	2/6 3名 多文化共生プラザ仲介
「ふしぎな友達プロジェクト」	主催：障害者福祉センター 協力：プロダンサー ひびきみか DEEP UNIT	11/11開催 シアター形式でプロのダンサーと障害当事者が一緒にダンスを披露する。今回も100名以上の来場者があり、大盛況でした。
交流の助長 スターバックスカフェ	主催：障害者福祉センター 協力：スターバックスコーヒー 宝塚大学	11/29開催 今回は対象者を館内の利用者として、スターバックス店員との交流や、就労体験の場として実施。
バリアフリー映画会	共催：障害者福祉センター NPO法人ビーマップ	2/14開催 認知症の母とその家族の絆を描いた感動の物語。近隣の自治会等にも告知を行い、当日は80名の来場者があり、アンケートの回収率も高かった(44名分)。

14. 管理業務

(1) インターシップ(職場実習)の受入れ

重点的な取り組み	達成度・成果
障害者の職業訓練や雇用促進のため、インターンシップ制度を導入する。	関係機関と受入れは、懇談会を実施するなど、受入体制はあるもののマッチングする利用者がおらず、実施なし。

15. 施設管理業務

・会議室の貸出業務

	障害者団体	一般団体	区関係	計
会議室(3室)	8,822(540)	464(33)	104(7)	9,390(580)
調理実習室	2,172(118)	359(15)	6(1)	2,537(134)
創作活動室	1,100(127)	160(16)	8(2)	1,268(145)
録音室	1,424(247)	43(7)	22(4)	1,489(258)
暗室	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
多目的ホール	1,034(67)	270(19)	82(6)	1,386(92)
パソコンルーム	2,603(362)	0(0)	0(0)	2,603(362)
計	17,155(1,461)	1,296(90)	222(20)	18,673(1,571)

・避難訓練他 防災関連

●避難訓練：年2回実施

●備蓄物資

備蓄飲料・食料一覧

物品名	数量	保存期限	
アルファ化米(白米)	480	H30.4.30	
ミネラルウォーター	480		
ビスケット	480	H32.10	
乾パン	480		
1日の収容予想人数(160人)×3日分の数量 B1F防災備蓄倉庫の一部を借用して保管中			

備蓄備品

備品名	数量	保存期限	備考
簡易トイレ	160		
トイレトペーパー	16		
担架ベッド	3		
ガソリン缶詰	8	H30.11.23	
灯油缶詰	10	H30.11.23	
ボディータオル	160		
乾電池(単一)	64		
発電機	1		
赤外線暖房機	1		
B1F防災備蓄倉庫の一部を借用して保管			

その他備品

物品名	数量	設置場所	備考
担架	1	1F受付	

車いす	4 (1F 3台／2F 1台)	1 F 受付、 2 F PC室、創作活動室	倉庫に予備あり
AED	1	2 F 事務室	
アンビューバック	1	2 F 事務室	
館内各所に保管			

その他

●労働衛生委員会

障害者福祉センター全従業員数が、57名となり、労働衛生委員会を平成29年11月に発足させました。発足後、産業医を含む委員会メンバーで、昨年度開催回数は3回で、主な議題は、ストレスチェックの実施にむけてや労働環境の整備についてなどでした。

3. 新宿区立あゆみの家

1. 運営の基本方針について

平成29年度の重点的取り組みは、3点を掲げました。

(1) 医療的ケア、感染症対策、リハビリプログラムの充実に努めます。

ゆみの家は、区内の障害者施設では利用者の障害程度が最も重度であることから、支援の専門性と習熟度、保護者との協力関係、介護や医療に係るリスク管理において高水準の管理・運営が求められる施設です。第2期指定期間の1年目にあたる29年度は、医療的ケア、感染症対策、リハビリプログラムの充実、医療職と介護職の連携強化に取り組み、利用者の障害程度が重度・重症化してもサービスの低下や利用制限を招くことがないよう支援体制の整備を進めます。

(2) 定員問題と利用者の重度・重症化に対応できる体制整備に向けた検討をします。

シャロームみなみ風の開設により27年度末に定員に大幅な空きが生じましたが、2年後の29年4月の空きは2名のみとなります。一方、年々進む利用者の重度化、特に医療的ケアを必要とする利用者の受け入れ体制の整備は急を要する課題です。現在、区内では生活介護施設を新設する計画がないことを考えると既存の事業所の受け入れ調整や定員の増員の検討が急務です。

そこで定員問題と重度化問題に対応するための体制整備の補助金制度や先進事例の調査等により具体的方法を新宿区と協議します。

(3) 新規入所者の円滑な定着と新規プログラムの導入を確実に進めます。

新規入所者については、29年の2～3月に2名、4月には3名、合計5名を受け入れます。うち2名は医療的ケアの利用登録者となっているので、利用者の障害状況や適性の把握、ご家族との協力関係等において、丁寧な受け入れを心掛けて新規利用者の円滑な定着を図ります。

また、利用者の障害の重度化が進む中でも利用者が能動的で受容的な人間関係を形成できる感覚刺激プログラムとして「スノーズレン」を取り入れます。

(1) 医療的ケア、感染症対策、リハビリプログラムの充実について

医療的ケアに携わる支援員の研修、指導医によるグループ毎に関連する疾患の研修、感染予防のための指導を実施しました。リハビリプログラムの充実化については、理学療法士の常勤化により、随時チェックと

支援員と共に、各利用者の身体状況に適したプログラムの実施をしました。

また、医療職と介護職の連携強化と支援体制の整備については、毎週行う利用者報告やリーダー会にてグループ毎に体調や支援状況等の情報を支援員と専門職を含め共有しました。

さらに深く掘り下げるべき事案に関してはケースカンファレンスを開催し、各職種間での検討を重ね、指定医、嘱託医、そして利用者の主治医とも連絡を取り、利用者の体力・体調の変化に応じた支援に活かし、共有しました。

(2) 定員問題と利用者の重度・重症化に対応できる体制整備について

職員への障害や医療的ケアに関する研修をはじめ、重度心身障害者通所事業の32年度開始に向けて、施設改修を含めた区との協議、保護者との話し合いを重ねました。

また、先行事例を学ぶために区外施設への見学と調査を行い、手続きの流れや施設の改修、必要な設備の参考としました。

(3) 新規入所者の円滑な定着と新規プログラムの導入について

新規入所者とは特に、個別面談などご家族と密に連絡を取り合い、相互の理解と協力を得て、日々の支援に活かし、円滑な定着を図りました。

感覚刺激プログラムとして「スヌーズレン」を活用するために、職員と保護者へそれぞれ外部講師による研修会にて、スヌーズレンの理論、事例や活用方法を学び、感覚活動担当が中心にプログラムに取り入れています。

また、29年度もミュージシャンによる音楽ライブ、区内のカフェ店の出張カフェ、ヘアカットサービス、音大学生による演奏会等、多彩なプログラムを実施し、感覚や情緒に楽しさが響く活動を続けました。

さらに、利用者へのより良いサービスを提供するためには、職員が働きやすい組織、職場を作ることが重要と考え、法人全体で、新宿区の事業である「働きたい職場づくり応援事業」に参加しました。職場活性のためのコンサルティング及び研修プログラムを通して、管理職と監督職から組織づくり等を学び、法人組織全体に活用し、職員の定着及び支援の安定化を図りました。

2. 生活介護事業の実施報告

利用者と通所率

・平成30年3月末現在の利用者数：41名（定員45名）と障害程度区分

	区分6	区分5	区分4	合計
27年度	28名（73%）	4名（11%）	5名（16%）	37名
28年度	29名（74%）	5名（13%）	5名（13%）	39名
29年度	30名（73%）	7名（17%）	4名（10%）	41名

・利用者の通所率（年間平均）

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
83%	88%	88%	84%	88%	87%

・欠席者の理由（延人数）

欠席理由	欠席者の延人数	備考
病気、発作、通院、入院	834名（55.9%）	
介護者や家庭の事情	297名（19.9%）	介護者の病気、冠婚葬祭、旅行等
他施設のサービス利用	212名（14.2%）	言語訓練、短期入所、プール等
その他	148名（9.9%）	

年間行事

4月：入所式、始所式（新規入所者3名）

6月：所内宿泊（新規入所者3名）

7月：プロの美容師によるヘアカットサービス（協力：山野愛子美容室）

：あゆみカフェ（協力：新宿区社会福祉協議会、株式会社 スターバックス）

9月～10月：秋季合宿（利用者を2グループに分けて2回実施）

11月：第41回あゆみ祭

12月：障害者作品展、障害者施設共同バザール

1月：成人を祝う会

3月：「第8回落合つながるカフェ」～知的障害疑似体験を通して障害を知る～

3. 入浴、給食、送迎サービス

●入浴サービス

	27年度	28年度	29年度
入浴サービスの年間延べ人数	937名	977名	1,048名
入浴サービスの月平均延べ人数	78名	81名	87名

●給食サービス

食形態調査や食物アレルギー調査実施。利用者の摂食状態に応じて普通食、きざみ食、みじん食、ペースト食、ムース食の5種類の食形態で提供。29年度は、きざみ食、ムース食等追加。年4回の選択食デ、和・洋・中と好みのメニューにより楽しめるように工夫。さらに“ご当地グルメ”と銘打って四季折々の食材を使った特別メニューも実施しました。

	27年度	28年度	29年度
給食サービスの年間延べ人数	6,975名	7,413名	7,836名
給食サービスの月平均延べ人数	581名	617名	653名

4. 短期入所事業及び日中ショートステイ事業

利用定員及び利用時間 利用者登録とサービス提供数の推移

(単位：泊)

・短期入所の年間宿泊数推移：226泊 ※参考：平成27年度216泊、28年度214泊。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
合計	17	23	25	24	22	13	20	19	21	12	18	12

・日中ショートの利用者数：延べ人数92名

(単位：人)

※参考：平成27年度は延べ人数120名、28年度は延べ人数106名。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数	11	11	3	4	0	0	9	11	11	9	8	15

5. 土曜ケアサポート事業

・利用登録者 ※参考：28年度登録者人数は54名（うち医療的ケア対象者は5名）

	あゆみの家の登録者	あゆみの家以外の登録	合計	医療的ケア対象者
合計	30名	30名	60名	6名（再掲）

・利用状況の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
実施回数	5回	3回	4回	5回	3回	3回	4回
利用人数	134名	76名	107名	135名	84名	82名	106名
1回あたり	27名	25名	27名	27名	28名	27名	27名
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
実施回数	3回	4回	4回	4回	4回	46回	
利用人数	78名	106名	104名	96名	103名	1,211名	
1回あたり	26名	27名	26名	24名	26名	26名	

※参考 28年度は、実施回数45回、利用人数1165回、1回あたり26名

6. 利用者への個別支援について

(1) 個別支援計画の策定とモニタリング (2) 健康管理及び衛生管理 (3) 医療的ケア

・利用登録者数：9名 ・生活介護事業医療的ケアの種類と提供件数

内容	登録者	年間 提供数	月平均	過去実績（月平均）			
			29年度	28年度	27年度	26年度	
吸引	口腔	5名	3,978	309	155	130	176
	鼻腔	4名	1,875	156	101	117	147
	気管	3名	4,313	359	135	304	344
経管 栄養	経鼻	0名	0	0	0	8	13
	胃ろう	5名	838	70	47	18	67
吸入	6名	1,141	95	95	81	81	
気管の衛生管理	3名	292	24	24	26	26	
導尿	2名	245	20	20	20	21	
人工呼吸器の管理	2名	289	24	24	12	13	
酸素の管理	2名	207	17	17	17	7	
呼吸リハビリ	1名	0	0	0	42	35	

・緊急時薬の使用状況 ※参考：27年度の使用回数28回、28年度の使用回数21回。

緊急時薬を預かっている利用者	12名
緊急時薬の使用回数	17回

7. 計画相談事業（サービス等利用計画の作成）

	事業実績	
利用契約	あゆみの家の利用者の契約	: 46名中41名と契約 (H30.4からの新規利用者5名含)
	あゆみの家以外の方の契約	: 20名
計画の作成	29年度の件数	: 28名 (新規契約8名、既契約20名)
モニタリング	3月末モニタリング実施済み件数	: 80件

8. 利用者主体の施設運営を進める取り組み

相談受付及び苦情対応、ヒヤリ・ハット及び事故報告

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計
苦情窓口の相談	0	0	0	0	0
所長への直行便	0	0	0	0	0
事故報告	0	2	0	1	3
ヒヤリ・ハット	5	3	5	9	22
ヒヤリ・ハットの内容： パニック（10件）、ベルト確認不足、転倒（車いす、手引き、移乗）等					

●利用者満足度調査の実施

- ・実施時期：平成30年2月
- ・回答率：利用者・保護者41名に調査票を配布し、調査票の回収数は34名（回収率83%）
- ・調査内容：20項目の質問と自由記述。評価は、「とても満足」「どちらかといえば満足」「どちらかといえば不満」「とても不満」「非該当またはわからない」の5段階評価です。
- ・調査結果の概要：
調査結果は、昨年と同様でしたが、「とても不満」「どちらかといえば不満」の回答に対する改善策を検討していく必要があります。

○「とても満足」の回答が最も多かった項目

- 1位：給食サービスによる食事提供（回答者の72%）
- 2位：通所バスによる送迎サービス（回答者の60%）
- 3位：職員の説明や報告のわかりやすさ、丁寧さ（回答者の48%）

○「とても不満」及び「どちらかといえば不満」の回答が最も多かった項目

- 1位：施設の使い勝手（グループの活動室の広さや機能）（回答者の24%）
- 2位：年齢や適性、趣向に配慮した個別支援プログラム（回答者の21%）
- 3位：秋季合宿（回答者の12%）

※（とても不満+どちらかといえば不満）という回答はゼロ。

このように不満を感じている人が全くなかった項目は、20項目中で8項目ありました。

○将来的な利用意向や在宅生活の満足度についても12項目にわたり調査しました。

「とてもあてはまる」が最も多かった項目

- 1位：あゆみの家にずっと通わせたいと思う（回答者の82%） 昨年は77%

- 2位：保護者、職員、区役所の協力体制がよくできていると思う（回答者の36%） 昨年は8%
- 3位：あゆみの家は区立施設だから将来にわたり安心だと思う（回答者の33%） 昨年は35%

●第三者評価による評価結果

第三者評価機関による短期入所、生活介護の利用者への書面による調査、および運営への書面による調査、さらに施設への訪問による聞き取り調査を実施。

- ・評価機関：特定非営利活動法人NPO専門職ネット
- ・評価合議日：平成30年3月23日

①短期入所

○利用者調査全体のコメント

- ・利用者の事業所に対する総合的な評価として、回答者約44%が「大変満足」、約44%が「満足」との回答。「いつも安心して利用」「様子を詳細にノートに記入してもらって、満足」、「医療的ケアの必要な利用者も利用できる」と良いなどの意見あり。
- ・「どちらともいえない」の回答。「一対一手厚く対応してもらっている反面、不安に思うこともある」、「複数名の利用が出来ると良い」などの意見あり。
- ・個別の質問。「食事」「安心した生活」「職員の言葉遣いや態度」「利用者の気持ちを尊重した対応」は「はい」とする回答割合が多数（89%）で利用者の評価は高い。
- ・「設備環境」や「環境整備」、「サービスの内容の説明」「外部の相談窓口」は、「どちらともいえない」との回答がやや多い傾向あり。

○特に良いと思う点

- ・利用者の地域生活（交流等）の充実に向けた支援に取り組んでいる。
- ・利用者支援の充実に向けて利用者・家族の意向収集と連携体制を構築している。
- ・併設する生活介護事業との連携・連動により、利用者の生活の継続性に配慮した支援を実践している。

○更なる改善が望まれる点

- ・受け入れ計画の作成と支援導入への目標と効果の可視化に向けた取り組みの充実に期待する。
- ・障害の重度化に対応できる施設機能の強化、支援体制構築に向けた着実な取り組みの推進に期待する。
- ・各職員に着目した個人別の育成計画の明確化など、支援スキルの向上への取り組みの推進に期待する。

②生活介護

○利用者調査全体のコメント

- ・「新宿区立あゆみの家を総合的に見てどのように感じているか」の質問。回答者約39%が「大変満足」、50%が「満足」、約8%が「どちらともいえない」との回答。
- ・総合的な意見では、「毎日楽しく通所することが出来ている」、「親子ともども喜んでいる」、「子どもの様子から“安心”という2文字が感じ取れる」、「大変手厚い体制に感謝」などの回答あり。ほかに「職員体制についての要望」や「年齢や障害の程度に応じた活動の充実」、「医療的ケアの対応の一層の充実」などを求める意見もあり。
- ・個別項目は、サービスの提供や利用者個人の尊重など、多くの項目（14問中9問）で肯定的な回答（はい）が75%以上を占めています。
- ・「清潔な生活空間」には（いいえ）の回答がありました。
- ・「設備環境」や「清潔な生活空間」、「いさかやいじめがあった場合の対応」「職員以外の相談先の告知」については、回答が分かれた。

○特に良いと思う点

- ・重度、重症化に対応した医療的ケア等の支援体制、活動環境の充実などを取り組んでいる。
- ・職員全体で利用者全体を支援するなど職員の協力・連携、チームワークを重視した支援に取り組んでいる。
- ・保護者との共通理解を深め協力・連携体制による一人ひとりの利用者支援の充実に繋げている。

○更なる改善が望まれる点

- ・個別支援内容の充実に向け、意思疎通に関する蓄積された情報の共有化の取り組みに期待したい。
- ・各職員に着目した個人別の育成計画の明確化など、支援スキルの向上の取り組みの推進に期待したい。
- ・障害の重度化に対応できる施設機能の強化、支援体制の構築に向けた着実な取り組みに期待したい。

9. 地域、ボランティア、行政との協力と連携の取り組み

(1) 地域における障害者理解の促進の取り組み

地域における障害者理解の促進のために次の3つの取り組みに力を入れました。

- 地域で暮らす障害者や施設利用者が安心して暮らせるように、地域住民や関係者の相互理解を深めたい」という趣旨であゆみの家を会場に『落合つながるカフェ』を1回開催しました。カフェには地域の福祉施設の職員や都議会議員の方が参加して、今回は、知的障害疑似体験キャラバン隊W i n d sによる疑似体験を通して、障害の理解をテーマとし、一緒に体験することで関係作りが進みました。
- 広報紙「あゆみだより」を700部、3回発行して関係機関や地域の諸団体に配布しました。保護者や購読者から毎回「とても読みやすい」等、好評を博しています。
- 行政や地域福祉関係者の施設見学や福祉系専門学校、大学の研修生の受入れを積極的に行いました。

(2) ボランティアの育成

ボランティアの受入や育成は、日中活動のボランティアと行事ボランティアがあり、いずれも人数や回数など、活動の継続性や定着率が向上しました。特に日中活動ボランティアは、新宿区社会福祉協議会から紹介された、読み聴かせ、書道の講師として毎月1回実施しました。また、大学生の福祉系サークルの活動が継続されており、さらにあゆみ祭のボランティアは、リピーターも多く登録者数も増えました。

(3) 新宿区との連携

区が主催する相談事業者連絡会、施設連絡会や進路対策連絡会、虐待防止の研修会、福祉施設職員相互研修等に積極的に参加して関係強化を図りました。29年度は、32年度より重度心身障害者通所事業および定員の増員に向けた改修工事に関する打ち合わせを所管課と行いました。

また、29年度は、避難路である屋外スロープの塗装工事を行い、近隣の理解を得て終了できました。

(4) 避難訓練と大災害時対策について

火災や震災の避難訓練は、利用者が参加して年6回実施しました。備蓄品は購入期限を確認し、必要な物については購入して入れ替えをしました。利用者保護の緊急対応マニュアルの整備は既に行っており、今後の課題としては、災害時対応マニュアルが実際の場面で機能するように福祉避難所の立ち上げ訓練等を通じて実効性を高めることです。

10. 職員配置、人材育成、労働環境

○職員配置

	職 種	人数	常勤	非常勤	備考
運営係・総務、庶務 ・施設管理 ・経理	施設長（所長）	1	1	0	・副施設長は、サービス管理責任者を兼務
	総 務	3	2	1	
	サービス管理責任者	1	1	0	
支援係・生活介護 ・短期入所 ・日中ショート ・土曜ケア ・相談支援	生活支援員	37	30	7	・他に嘱託医2名
	看護師	4	4	0	
	相談支援員	2	1	1	
	理学療法士	1	0	1	
	作業療法士	0	0	0	
	バス添乗員	7	0	7	
	合計	56	39	17	

○人材育成と職員研修

	研修内容	時期	対象者	受講者数
所外 実務 研修	重度・重症者の摂食指導	7, 8月	支援員	4名
	重度・重症者の医療と生活	11月	支援員	1名
	介助の基礎知識（バイタル、嚥下）	10月	支援員、看護師	10名
	重度心身障害児者の呼吸障害	1月	所長	1名
	東京都通所活動施設研修会 ・利用者と支援者の関係性の再考 ・医療的ケアの地域生活 ・自閉症の支援 ・意思決定支援 ・個別支援計画	6、9、 11、1月	支援員	12名
	アドラーコミュニケーション	8月	サービス管理責任者	1名
	家族とのコミュニケーション	9月	支援員	4名
	専門性向上（交流分析①）	9月	支援員	3名
	東京都痰吸引（1号）研修	6～12月	理学療法士	1名
	所外 職層 研修	環境マネジメントシステム研修	4月	所長、総務
新宿区障害者施設職員の相互研修		6、7月	支援員	16名
差別解消法啓発活動研修		6月	所長	1名
チームビルディング研修		8、9、11、 1、2、3月	管理職、支援員	16名
公平採用及び人権擁護研修		6月	所長	1名
言い方コーチング		11月	支援員	1名
所内 研修	マインドフルネス	4月	支援員、看護師	20名
	ふれあい体操	5月	支援員、看護師	15名

	てんかんの基礎と座薬挿入の実技	6月	支援員、看護師	26名
	スヌーズレン	8, 11月	支援員、看護師	23名
	自閉症体験	12月	支援員、看護師	17名
	意識向上	12月	支援員、看護師	25名
	通所者の障害について	1, 2月	支援員	27名
	日常の支援の見直し	2月	支援員、看護師	29名

4. 福祉ホーム「あじさいホーム」

平成29年度は以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者一人ひとりに必要な福祉、医療のサービスを継続的に提供し、生活全般にわたる支援を行い、笑顔絶えない生活環境を目指します。

- ・入居者の高齢化、障害の重度化に伴うサービスを適正に判断し、提供していきます。
- ・自らが選択する生活を営むための情報を提供し、生活全般にわたる支援を行います。
- ・入居者同士が関わる機会を増やし、アットホームな関係構築を支援します。

●事業概要

事業名 : あじさいホーム

事業種別 : 福祉ホーム

定員 : 10名

事業所所在地 : 東京都新宿区西早稲田1-11-10

1.実施報告

○運営費

障害者総合支援法の地域生活支援事業として、補助金額、年額15,255,000円により運営しました。

職員配置 : 職員配置は以下のとおり。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士
生活支援員	2.5		2.5	
生活支援員		数名	常勤換算1以上	
事務	1(兼務)		1	兼務

○借入金の償還

建設資金として独立行政法人福祉医療機構より36,800千円、東京厚生信用組合より46,279千円を償還計画表に基づいて、入居者の家賃収入と寄付により償還しました。独立行政法人福祉医療機構分は、貸付元金1,840千円、利息107,354円を平成29年度に償還しました。利子については、東京都(東京都福祉保健財団)によって利子補給されました。併せて東京厚生信用組合は、元金2,949千円、利子229千円を平成29年度で償還しました。

○ホームヘルパー制度の活用

10名の内、3名は65歳を超え、障害者福祉サービスの居宅介護と地域生活支援事業の移動支援、3名は介護保険制度訪問介護を利用して、日常生活を送っています。

一体的に支援ができるよう他のグループホームや介護派遣事業所も含め、勉強会や講習会を実施しました。

	日程	テーマ	参加人数
第1回	5月17日	緊急対応（AED～119番）について 消防署職員より	24名
第2回	6月26日	加齢にともなう身体変化と嚙下の働き 小児科Dr 栗原亜紀氏	33名
第3回	9月20日	障害理解 臨床発達心理師 秋田彰子氏	27名
第4回	10月10日	障害のある人との災害時の行動 新宿区障害者福祉協会事務局長 青木昌広	19名
第5回	11月9日	怒りに対してのコミュニケーション 帝京科学大学 田口助教授	25名
第6回	2月21日	虐待防止について 強度行動障害への対応 東京大学 熊谷准教授	51名

※あじさい、ひまわり、ぼけっと、からふる、ぱれっと、ルクール等共同で開催

○健康管理

月2回フジモト新宿クリニックの訪問医療や三浦歯科クリニックの訪問歯科を活用し、健康管理をしています。医療的ケアは、新宿区医療ケア体制支援事業により、訪問看護ステーションが、実施しました。介助者も医療的ケア等の知識、技術を習得する場を提供し、主治医や訪問看護ステーション、通所先の医療職員との連携を強化し、バイタルチェックや日常生活での変化について報告し、病気の早期発見や日々の体調管理に努めました。入院回数も増えているため、医療との連携に努めました。

○入居者運営委員会・父母懇談会の開催

	回数	内容
入居者運営委員会	12	日常生活に関連するルール決めなどの議案 イベント（日帰りレク・料理会・クリスマス会、外食会）
父母懇談会	10	生活の様子報告・イベント報告・個別相談や面談など

○防災訓練

入居者の安全を確保のため、消防計画を策定し、それに基づいて年2回の防災訓練、消防署員を招いてのAED講習会を開催（①平成29年5月17日実施、AED講習会。介助者24名参加 ②平成29年10月10日、介助者19名参加を行い、災害・緊急・救急時対応）しました。28年度から自動火災通報器が導入され、使用方法の確認含め避難訓練時の操作確認等を業者と連携し、ハード面の理解（使用方法等）向上を職員間で共有するよう心掛けました。

29年度は防犯カメラ設置や警察への通報装置設置もを行い、危機管理対策の強化を図っています。

○余暇の充実

	回数	内容
イベント	3	・ホーム内での料理会・クリスマス会・ご家族との食事会
年間外出	0	介助者側の調整が間に合わず、29年度は実施できなかった
地域行事への参加	2	・町会さくら祭り・秋祭り

5・福祉ホーム「ひまわりホーム」

平成29年度は以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者一人ひとりが毎日を健康に過ごし、通所先に元気に集い、社会参加できる喜びを常に持ち続けられるよう生活全般にわたって支援します。

- ・一人ひとりの入居者が、健康で文化的な生活を送る事が出来るよう支援します。
- ・恒常的な支援の中でも日々の変化を見逃さず、一人一人の可能性を引き出していく支援を心掛けます。
- ・継続的に日中活動に参加できるよう、通所先や医療機関と連携を強化します。

●事業概要

事業名 : ひまわりホーム
実施事業 : 地域生活支援事業 福祉ホーム
定員 : 10名
事業所所在地 : 東京都新宿区西新宿4-21-19

1. 実施報告

●運営費

障害者自立支援法の地域生活支援事業福祉ホームの補助金、年額15,255,000円により運営しました。
職員配置 : 職員配置は以下のとおり。

職種	常勤(人)	非常勤(人)	合計員数	資格等
施設長	1		1	介護福祉士
生活支援員	2.5		2.5	
生活支援員		10名	常勤換算1以上	
事務	1(兼務)		1	

○ホームヘルパー制度の活用

※あじさいホーム同様

○健康管理

月二回程度フジモト新宿クリニックの訪問医療、三浦歯科クリニックの訪問歯科、山本りかアイクリニックの訪問眼科を実施しました。医療的ケアは、新宿区医療ケア体制支援事業を通じて訪問看護ステーションからの派遣となりました。介助職員にも医療的ケアの知識、技術を習得する場を提供し、主治医や訪問看護ステーション、通所先の医療専門職との連携を強化し、バイタルチェックや日常生活の中での変化について報告し、病気の早期発見や日々の体調管理に努めました。担当職員が喀痰吸引3号研修の受講、実地試験を行い専門的知識の取得・向上に努めました。

○危機管理・防災訓練

ひまわりホームの消防計画を策定し、それに基づいて年2回防災訓練、地域の防災訓練への参加、消防署員を招いてのAED講習会を開催(①平成29年5月17日実施。AED講習会。参加者24名②平成29年9月3日実施。地域防災訓練。参加者3名③平成29年9月9日実施。避難訓練参加者14名④平成30年3月10日実施。避難訓練参加者12名)し、災害・緊急・救急時に備えています。

29年度、防犯カメラと警察への自動通報装置を導入しました。使用方法の確認、操作確認等、支援者が使用方法等を把握し、救急対応の強化と緊急時の連絡体制・介助者の迅速な対応の強化に努めています。

○余暇の充実・地域交流

	回数	内容
イベント	10	・アートプログラム・ぼれぼれダンス・家族食事会（花見） ・アロママッサージ・入居者誕生日会・ハロウィンイベント ・クリスマス会・JAZZコンサート・節分イベント
年間外出	6	① 全体外出 ②数名に別れてのグループ外出③ご家族との外出
地域行事への参加	10	・中央公園盆踊り・幼稚園との交流会・地区防災訓練・児童館祭り ・コミュニティスポーツ大会・角筈地域センター祭り・打ち水会 ほか、西新宿情報交換会年6回

○保護者・後見人・通所事業所との連携

入居者の多くが重度重複障害者であるため、生活に対する意見を聞く場として、代弁者である家族の方々との保護者会を開催しました。年配の方も多く保護者会に出席できない親御さんには、議事録を送付し、日々は、電話やメールなども利用し、情報共有を図っています。

成年後見人利用者は、後見人との連携とっています。今後も必要な制度を利用者や家族が選択できるように努め、声なき利用者の思いに寄り添える支援が円滑に行えるよう心がけていきます。

	回数	内容
父母懇談会	11	生活の様子の報告・イベント報告・個別相談など

5・事業所「ぼけっと」

事業所「ぼけっと」は3つのユニットで構成している。

ユニット①グループホーム「ぼけっと」

ユニット②グループホーム「からふる」

ユニット③グループホーム「からふる」

事業所ぼけっと下記の職員配置で実施しました。

職員配置：単位（人）

平成29年3月31日現在

	管理者 サービス 管理責任者 (兼務)	世話人	生活支援員 ()内は 常勤換算後の 人数	その他の支援者 (他事業との 兼務)
常勤専従		2	2	
常勤兼務	1		2	1
非常勤			23 (6.7)	

各ユニットの状況報告は以下の通り。

ユニット① ぽけっと

平成29年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者一人ひとりのライフスタイルを尊重し、その人らしい暮らしができるように支援します。

- ・ほっと一息つき、自分らしさが出せる場所であるようにします。
- ・ご家族と連絡を密に取り、適宜相談しながら一緒にご本人の生活を組み立てていきます。
- ・通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を強化し、地域生活をスムーズに送れるよう支援していきます。
- ・法人内の他グループホームとも連携を強化し情報を交換することで、支援レベルの向上、虐待防止等に努めます。
- ・共同生活を強制せず、各々がゆっくり休める環境作り、配慮に努めます。

事業名 : ぽけっと

実施事業 : 共同生活援助

定員 : 6名

事業所所在地 : 東京都新宿区百人町3-3-2

ユニット② からふる

平成29年度に事業を実施するにあたり、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者が主体性を育み生活がおくれるような支援を目指します。

- ・自分で考え行動できるような環境づくりを行います。
- ・課題に向き合い、取り組めるように支援します。
- ・ご家族や通所先、関連機関、行政、地域の方々との連携を図り生活の質が向上できるように位支援します。

事業名 : からふる

実施事業 : 共同生活援助（グループホーム）

定員 : 7名

事業所所在地 : 東京都新宿区西新宿4-8-36

ユニット③ ぱれっと

平成29年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

入居者一人ひとりが自身の目標に向けてチャレンジできるような支援体制を作りつつ、安心して自立した生活を送れるよう支援していきます。

- ・入居者やご家族がホームでの暮らしに安心感を与えられるよう関係作りに努めてまいります。
- ・課題に向き合い、生活力の向上につなげられるように支援します。
- ・ご家族や通所先との連携を強化し、共同生活の中で切磋琢磨できる環境を整え、自立心が芽生えるよう支援していきます。

事業名 : ばれっと
実施事業 : 共同生活介護 (グループホーム)
定員 : 6名
事業所所在地 : 東京都新宿区高田馬場3-43-8

サービスの質の向上にあたっては、下記の事項について、より強化を目指し実施した。

1. 個別支援計画の策定
2. 職員のスキルアップ
3. 非常勤職員との連携
4. 区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化
5. 関係機関とのつながり
6. 地域行事への参加

1・個別支援計画の策定

個別支援計画を作成し、半年でモニタリングを実施し、計画の見直しを行いました。中年化・高齢化が顕著となり、健康面・体力面への配慮がより重要となっています。それぞれの年齢や体系などに応じた健康面への配慮を検討し、健康に留意できるような取り組みを行いました。また、通所先や余暇を健やかに活動できるよう、生活拠点としてなるべくストレスのないリラックスした生活が送れるように見直しを図りました。

2・職員のスキルアップ

高齢化や障害の重度化により、共同生活で他入居者との関わりや支援方法がより複雑化しているため、研修の機会を増やし、個々のスキルアップを図り、利用者支援の向上につなげています。入居者の障害特性などに配慮しながら、かかわりのある支援者が、一体的に支援ができるよう他のグループホームや介護派遣事業所も含め、勉強会や講習会を実施しました。

3・非常勤職員との連携

外部研修などにより得た知識を生活支援員全員が共有できる環境を整備し、新しい情報を支援に活かしました。支援者同士の情報交換会や勉強会を行い、全員のスキルアップを図りました。「働きやすい環境作り」を目指し、常勤支援者の考えや意図が伝わるよう「申し送りファイル」の活用方法をさらに検討し、情報共有が図れる仕組みを強化しました。質の高い支援に努め、支援体制の統一化を図ってきました。

また、新たに「意見交換ノート」を整備し、支援者同士が協力して意見を交換し合い、より良い支援や環境整備に力を入れ、支援のボトムアップ環境を作るために、業務の中で感じた感謝の気持ちを声や文字を通して伝え、提案や意見のしやすい雰囲気作りを目指してきました。

4・区内・法人内グループホームとの情報共有または連携強化

法人内グループホーム支援者が、集うミーティングを月1回開催。各ホームでの課題を協議することで、ひとつのホームでは解決できない問題も対応しました。障害種別や特性の違う支援を共有することで、臨機応変かつ柔軟な対応ができるように努めました。同一法人内で同レベルのサービスが提供に努め、チームケアの向上、苦情や虐待防止への取り組みなど様々な情報を共有して解決に導けるように連携を強化しました。

また、内部研修の実施にあたっては、支援者に対する技術・知識の向上を図るため、ヘルパーなど、利用者の直接支援にあたる、生活支援員などを対象に法人内の各事業合同開催として、グループホームや介護派遣事業所のヘルパーや支援者向けに月に1回程度のスキルアップ研修を行いました。障害者虐待防止法や差別解消法などの理解や利用者の障害の理解、介助スキルの向上、メンタルヘルスなどのテーマで実施し、

利用者支援の向上を図りました。

5・関係機関とのつながり

入居者家族との懇談会を月に1度実施し、個々の生活状況の報告や意見交換を行い、事業運営の理解を深め、ホームに対する入居者、家族の安心感が高まるように努めました。日々の情報共有は、連絡帳や電話、FAX、メールを使い、こまめなコミュニケーションを行いました。通所先や他事業所などとも情報交換を随時行いました。

平成29年度は、3ユニット合同で、保護者と支援者の親睦を深めるための食事会の機会を設けました。

高齢化と重度化にも対応し、医療機関や医師や看護師、専門職などとの情報共有に努め、日々の入居者の変化に迅速に対応するための関係づくりを強化しました。

6・地域行事への参加

各種地域イベント等、入居者とともに様々な場に参加し、交流を図りながら地域の方々と一層の信頼関係を築いていけるよう努めました。また、社会参加の機会を増やすために地域に働きかけに努めました。

○危機管理

事故につながる可能性のある小さな出来事を「ひやりはっと」報告書に記載し、全員が閲覧できる場所に保管し周知を図りました。「ひやりはっと」は一定期間で集計をし、対策を講じて事故を未然に防げるようにPDCAサイクルに則り体制を適宜整えた。

ぼけっと	避難訓練（平成29年8月27日：入居者4名・介助者2名） 消防館にて防災訓練体験（平成30年2月12日：6名）	2回
からふる	消防庁ビデオ鑑賞による勉強会（平成30年3月14日：入居者6名・介助者2名） ホーム内避難訓練（平成30年3月21日：入居者5名・介助者3名）	2回
ぱれっと	消防館にて防災訓練体験（平成29年11月8日：入居者6名・介助者4名） 夜間を想定した避難訓練実施（平成30年3月24日：入居者3名・介助者1名）	2回

○イベント

ぼけっと	<ul style="list-style-type: none"> ・ホットケーキパーティー・GW入居者ごとのミニ遠足・楽しい集い・スポーツの集い ・地球感謝祭・ふしぎな友達プロジェクト・ふれあいフェスタ・センター祭・あゆみ祭 ・アミーゴフェスタ・クリスマス会・入居者誕生月に誕生会 など
からふる	<ul style="list-style-type: none"> ・物館や水族館の見学・家族交えてレストランでの食事会・ふれあいフェスタ・あゆみ祭 ・センター祭・節分・アミーゴフェスタ・町会お祭り・コンサート・打ち水 ・入居者誕生月に誕生会 など
ぱれっと	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の新年会・お花見・クリスマス会・ふれあいフェスタ ・日帰り外出（回転ずし）・センター祭・アミーゴフェスタ・アトムフェスタ ・4周年記念外出（焼肉パーティ）・クリスマス会・センター祭・あゆみ祭 ・入居者誕生月に誕生会 など

6. 介護派遣事業所「ルクール」

平成29年度は、以下の方針を掲げ、事業を実施しました。

【運営方針】

地域生活を送る利用者一人ひとりに日常的に必要な障害福祉サービスを継続的に提供し、QOLの向上を図り、心をこめた支援を実現します。

- ・日常生活における生活環境、障害程度にあった必要なサービスを提供し、日々生活力を高めて活きます。
- ・利用者の皆様が、安心して日常生活が送れるよう必要なサービスを関係機関と連携し、提供できるように心がけます。

●事業概要

○職員配置

職員を以下の通りに配置し、事業を実施した。

※平成29年3月末実績

部署	職 種	人数	内 訳 (人)			
			常勤	非常勤	備考	
・居宅介護 ・重度訪問介護 ・移動介護	管理者	1	1	0	すべての職員は、「居宅介護・重度訪問介護」、「移動支援事業」を兼務。 サービス提供責任者は管理者を兼務。 経理は、他事業を兼務。	
	サービス提供責任者	1	1	0		
	訪問 介護員	介護福祉士	8	0		8
		初任者研修等	21	0		21
	経理、庶務	1	1	0		
	合計	31	2	29		

○実施方法

①サービス提供実績

サービスの提供に当たっては、本事業の対象者ならびに提供時間、評価指標等を以下のように定めた。

契約者数	営業実施日 営業実施時間	事業評価の指標等
23名 (内訳) 身体5名・知的19名	月曜～土曜 9:00～17:00 サービス実施は、24時間365日	・サービス提供件数 ・サービス提供時間 ※実績は以下の表のとおり

※上記営業時間以外は、電話等により24時間常時連絡が可能な体制を確保。

②サービス提供内容

※平成29年度実績集計

事業	利用定員	提供時間
障害福祉サービス 居宅介護・重度訪問介護	身体介護5名(延べ人数48名) 家事援助3名(延べ人数36名) 通院介護9名(延べ人数33名) 重度訪問介護1名(延べ人数12名)	身体介護 2,383時間 家事援助 957.5時間 通院介護 85.5時間 重度訪問介護 61.5時間
地域生活支援事業 移動支援事業	17名(延べ人数126名)	1,402.5時間